



2009年1月1日掲載

碓氷峠紀行／準備編

2009年最初の「つれづれWEB」は、家族3人での旅行の様子をお届けしよう。今回の旅行は、群馬県と長野県の県境にある碓氷峠への日帰りなのだ。

実は、今回の旅行には大きなテーマがある。それは、4歳になる我が息子を新幹線に乗せようというものだ。

電車内の広告で、こういうものを見つけた。「週末日帰りパス」という切符で、関東圏のJR東日本管内の普通車自由席が、土日祝日の1日に限り乗り放題になるのである。

しかも、特急、急行や新幹線も利用可能で、最低大人2人での利用になるという。これで、1人換算で7,000円なのだ。

一応子供のも用意されているが、適用は小学生のみ。我が息子は幼児となるので、電話で問い合わせたところ、普通の乗車券同様大人の同伴扱いになり無料になるようだ。

週末日帰りバスは2008年末までの期間限定ということもあり、11月の3連休にこの切符を使うことに決定！あとは、どこへ行くかということになる。

大人1人7,000円ということは、片道3,500円以上かかれば元が取れる計算。この条件だと、東京からでは新幹線でエリアギリギリまで行けばペイできるのだ。

そこで、横川の「碓氷峠鉄道文化むら」と、軽井沢のアウトレットモール「軽井沢・プリンスショッピングプラザ」を訪れることにした。ただし、横川と軽井沢を結ぶバスだけは実費となってしまう。

早速、次のような行程を考えた。東京から上越もしくは長野新幹線で高崎へ行き、信越本線で横川で下車する。

鉄道文化むらに入り、トロッコ列車で温泉施設「峠の湯」へ。温泉を堪能したのち、再び鉄道文化むらに戻り、園内を見学する。

そして、バスで碓氷峠を越えて軽井沢に向かい、プリンスショッピングプラザで買い物。長野新幹線で東京に戻るというコースである。

時間としては、自宅を7:30に出て、東京9:00前後発の新幹線に乗車。これで、高崎10:21発の信越本線に接続して、横川に10:54に到着する。

鉄道文化むらと峠の湯に3時間ほど滞在して、14:50発のバスで軽井沢へ。帰りは18:00~19:00ころの「あさま」で帰ればよいと考えていた。

前日までこれで行こうと思っていたのだが、1つだけ懸念材料が。それは、横川でのトロッコ列車の接続である。

接続がタイトであるが上に、さらに昼前後にはトロッコ列車が2時間ほど休憩に入ってしまうのだ。これだと、峠の湯だけで鉄道文化むらを見学できないほか、14:50発のバスにも乗れない可能性があったのである。

幸いにして、当日は夫婦そろって予定より1時間早く起床。そのため、出発も1時間早く6:30に設定した。

これなら、高崎9:13発、横川9:46着の信越本線に乗ることが可能に。横川の到着も1時間以上早まり、峠の湯と鉄道文化むら両方を堪能することができるのだ。

準備を整え、予定通り6:30に出発！ 以後の様子は[こちら](#)をご覧ください。

[\[トップページ\]](#)



2009年1月10日掲載

碓氷峠紀行／席取り合戦編

今年1発目の「つれづれWEB」は、碓氷峠への日帰り旅行をお送りしているが、今回は2回目。前回は[こちら](#)をご覧ください。

6:30に自宅を出発した我々は、1時間足らずで東京に到着。朝ご飯がまだであるため、駅弁を購入し新幹線ホームへ向かう。

ところで、今回利用した「週末日帰りパス」は、新幹線でも自由席ならそのまま使える。指定席は、別途指定席券を購入しなければならない。

ちなみに、前日ネットで指定席の状況を確認したら、軒並み満席もしくは残りわずかの表示。そのため、席取り合戦を覚悟していたのだ。

ただ、今回ターゲットにしている列車は東京7:48発の「Maxとき307号」。2階建て新幹線なので、通常の車両よりは座席数が多い。

それゆえ、早くから並んでいれさえすれば、確実に席を取ることが可能なのだ。しかも、高崎での接続が35分もあるので、乗り換えに時間がかかるホームの最後尾でも問題ない。

「Maxとき307号」が入線する21番線に到着。ホームには、その前の列車である回送が止まっていた。

ホーム最後尾に着くと、並んでいるのは数人だけ。これなら、間違いなく席が確保できそうである。

ところで、我が息子はホームの横から見える東海道新幹線に大喜び。列車が見えるたびに「あれ500系？」と聞いてくる。

回送が発車し、「Maxとき307号」が到着。この列車は「Maxたにがわ400号」として到着したため、車内清掃が終わるまで乗ることができない。

その間、我が息子と一緒にMaxと記念撮影。ホーム上にいたほかの乗客たちから、我々の光景をほほえましく見守る視線を感じた。

車内清掃も終わり、乗車開始。無事、眺めのいい2階席をゲットすることができたのだ。

折り返しの都合からか、1分遅れの7:49の出発とほほときを同じくして、駅弁を食べ始める。腹

ぺこだったので、がつつりいただいた。

我が息子は、初めての新幹線に感動を覚えた様子。アニメキャラクターの駅弁とともに、満足そうだった。

東京を出発して1時間足らずで、高崎に到着。我が息子とは、乗ってきたMaxのロゴと停車中の回送200系で記念撮影を済ませる。

次に乗る列車は、高崎9:13発の信越本線横川行き。発車まで30分以上もあるため、一度改札を出て喫茶店で一服する。

発車10分前となり、改札へ。でも、その前の売店で「時刻表新発売 200円」と書かれていたので、思わず買ってしまう。

売られていたのは、高崎地区を中心とした北関東の時刻表。一応、東京地区の一部の路線も載っているのだ。

ホームでは、2両編成の列車が待っていた。しかし、これが意外と混んでいる。

普段の休日なら2両でも十分なのだろうが、この日は3連休。大半は「碓氷峠鉄道文化むら」目的だろう。

比較的混んでいるにもかかわらず、我が息子は肩車を要求。運転台の後ろでカブリツキを楽しんでいた。

ただ、我が息子も最近15kgを超えて重くなってきたので、肩車する方もつらい。幸いにして眠くなってきたようなので、我が息子を肩から下ろす。

その間、嫁さんはちゃっかり空席を確保。我が息子を寝かせるため、嫁に預けた。

そうこうしているうちに、終点の横川に到着。折り返し列車を待っていた人も、「今日は人が多いな」と感想を漏らしていた。

横川は2007年の「[親子三代上州紀行](#)」(PDFファイル)で通って以来1年ぶりとなるが、駅を訪れるのは11年ぶりのこと。長野新幹線の開通により信越本線横川―軽井沢が廃止になるということで、友人と来たきりである。

そのころとは、風景が様変わりしていた。変わっていないのは駅舎だけで、ホームも1つしか使われていない。

そんなときの流れを感じつつ、駅の目の前にある鉄道文化むらへ。この続きは[こちら](#)からどうぞ。

[\[トップページ\]](#)



2009年1月18日掲載

碓氷峠紀行／横川編

碓氷峠への日帰り旅行をお送りしている「つれづれWEB」だが、今回はその3回目。[1回目](#)、[2回目](#)はそれぞれからどうぞ。

9:46、横川に着いた我々は、駅前にある「碓氷峠鉄道文化むら」へ。入園券と「峠の湯」入館券がセットになったトロッコ列車往復券を購入し、園内に入る。

鉄道文化むらは、かつての横川機関区の跡地で、鉄道の「碓氷越え」の歴史を紹介するとともに、国鉄時代の車両も数多く展示。また、ミニSLへの乗車や模型の運転ができるほか、シミュレーターや実物の電気機関車も運転できるなど、鉄道好きには1日いても飽きないような施設である。

早速、峠の湯へ向かうトロッコ列車「シェルパくん」に乗る。シェルパくんは、1997年に廃止となった信越本線の線路跡を活用し、JR最急勾配だった66.7‰（約3.8°）区間を走行して、ぶんかむら駅—とうげのゆ駅を結ぶトロッコ列車である。

途中、国の重要文化財に指定されている旧丸山変電所跡の前にあるまるやま駅で停車。レンガ造りの変電所跡を見学できる。



ぶんかむら駅からおよそ15分で、峠の湯最寄りのとうげのゆ駅に到着。峠の湯はトロッコ列車以外にも、廃線跡を利用した遊歩道「アプトの道」のほか、車では国道18号線旧道からも利用することができる。

さて、早速入館すると、我が息子の分はセット料金に含まれていないとのこと。追加で幼児料金400円を支払う。

午前中ということもあって、入浴中の人は少ない。やはり、温泉は冷えた体を温めるのはうってつけなのだ。

ここには露天風呂もあり、山々の紅葉も一望できる。我が息子も、露天風呂にはご満悦のようだ。

30分ほど温泉に浸り、ふんかむら駅に向かうトロッコを待つ。その間、少しだけお土産を購入する。

トロッコが到着し、11:00にとうげのゆ駅を出発。再びまるやま駅に停車し、麓のふんかむら駅に着いた。

ここからは、鉄道文化むら園内を散策。まずは手こぎトロッコを体験してみたが、2人の呼吸が合わないとちゃんと進まないし、意外と力がいる。

何しろ、こぎ方によっては競合して止まってしまうのだ。子供のころ、友人から借りた足こぎ自動車がうまく進まず、前に行ったりバックしたりしたことを思い出した。

時刻はちょうど12:00、昼ご飯である。横川でご飯といえば、むろん釜飯しかない！

当然、園内でも釜飯を売っている。大人2人分だけ購入し、我が息子へは親のを分け与えることにした。

売店の隣に小さな休憩スペースがあり、そこで釜飯を食す。我が息子は、休憩スペースにあった釜飯のマスコットをねだる。

マスコットを買ってやると、大喜び。実物と見比べて「おんなじだー」と感心していた。

普通に遊ぶとなくしてしまいそうなので、ジャンパーのファスナーにつけてみる。すると、ふたを開けて「できましたー！」と遊んでいた。

腹ごしらえも済み、今度はミニ電気機関車を自ら運転して家族を乗せることができるファミリー列車に挑戦。土曜・休日の12:10～13:10限定で、1周300mのコースを回るのだ。

係員から走らせ方を教わり、出発進行！ 運転は私だが、警笛を鳴らすのは我が息子の役目となった。

2か所ある踏切前ではしっかり警笛を鳴らし、駅に到着。運転終了である。

その後も、1周800mの園内を回るナローゲージの「あぷとくん」に乗車。まさに鉄道三昧なのだ。

さらに、我が息子は屋外展示車両を1両1両中に入って、運転士気取り。展示車両でもない実

物の運転台には座れないので、ある意味貴重な体験だろう。

そんな中、実際に私も乗ったことがある展示車両を発見。通勤型気動車キハ35 901がそれである。

今から20年以上も前、親戚の家に行くために乗った八高線で使われていた車両。電化ならびに新型車両の導入で廃止となったこの車両を見て、思わず感慨に浸ってしまった。

14:30、軽井沢行きバスの出発時刻が近づいているので、鉄道文化むらをあとにする。以後、[こちら](#)へ続く。

[\[トップページ\]](#)



2009年1月25日掲載

碓氷峠紀行／軽井沢編

今月の「つれづれWEB」は、碓氷峠への日帰り旅行をお送りしているが、今回はいよいよ最終回。[1回目](#)、[2回目](#)、[3回目](#)はそれぞれをご覧ください。

「碓氷峠鉄道文化むら」をあとにした我々は、軽井沢行きのバス停へ。しかし、すでに行列ができていた。

さらに行列が伸びたところに、バスが到着。幸いにして、2人分の座席は何とか確保できた。

結局、あとから並んだ人は立ち席に。全員を詰め込み、バスは定刻より10分遅れの15:00に横川を出発した。

この日は3連休ということもあり、普段は碓氷バイパス経由のバスも、渋滞のため旧道経由。国の重要文化財でもある「めがね橋」が見えるとあって、車内からも歓声が上がる。

ゆっくりと碓氷峠を登っていくと、正式には「碓氷第三橋梁」と呼ばれるめがね橋の前を通過。「右側がめがね橋です」と車内アナウンスもあった。

このころには、我が息子も昼寝の時間。朝も早かったため、バスの揺れもあつてか撃沈していた。

車窓は、終わりつつある紅葉が楽しめる。まさに、赤や黄色の色見本といった様相だ。

184か所のカーブを通り、道が平坦になるとそこは軽井沢。15:40、定刻の15:24よりも大幅に遅れて到着した。

ここからアウトレットモール「軽井沢・プリンスショッピングプラザ」は、駅の反対側。歩いても数分の距離である。

駅の自由通路を通り、バス停とは反対の南口へ。すると、目の前にアウトレットが広がっていた。

駐車場待ちの車列もさることながら、人の数もすごい。何しろ、3連休でバーゲンを行っていたのだ。

おそらく、普段の休日ならここまで人がいないだろうという、人、人、人……という状態。3連休+バーゲン効果、恐るべし。

嫁さんは、いろいろな店を散策。私と我が息子は、その間暇となる。

我が息子は、お菓子を食べたり、ブロック玩具の店で遊んでいたりと、それなりに満喫している様子。一方、私は我が息子のお守りとなる。

そうこうしているうちに、日没へ。内陸部は、日が暮れると急速に寒くなるのだ。



この日初めて手袋をはめ、防寒もバッチリ。これで、安心してお土産を探し回ることができる。

自宅や職場へのお土産も購入し、夕食の時間。アウトレットにある和食店で、鍋焼きうどんを食すことにした。

しかし、日没で気温がぐんぐん下がっていることもあって、鍋焼きうどんの需要が高いようで空席待ちに。20分ほどで、ようやく店内に入ることができた。

うどんを待っている間、帰りの新幹線の心配をする。というのも、今回利用している「週末日帰りパス」は自由席のみ有効なのだ。

指定席は別途指定席券を購入しなければならないが、軽井沢に到着した時点で空席を確認したところ、すでにほとんどが満席となっていた。それゆえ、最悪デッキで東京まで戻ることも考えなくてはならないのである。

いよいよ、アツアツの鍋焼きうどんが到着。猫舌なのに鍋焼きうどん好きの私にとって、アツアツなのは非常に扱いが困る。

それでも、鍋焼きはやっぱりうまい。時間がかりながらも、すべてを平らげた。

さて、帰りの新幹線は19:38発の「あさま584号」をターゲットに。駅の売店で友人へのお土産を購入し、ホームへ降り立つ。

すると、すでに行列が。座れるかどうか微妙なので、車内の混雑を見て判断しようと思い、新幹線の到着を待つことにした。

そして、「あさま584号」が到着。やはり車内は混雑していた。

ここで決断をしなければならない。立ってでも早く着ける「あさま584号」に乗るか、1本あとの20:02発「あさま548号」まで待つか……。

出した結論は、今到着した「あさま584号」。発車間際だったので飛び乗り、空席を探して車内を右往左往する。

すると、子連れの子々を見かねた女性が席を譲ってくれたのだ。彼女の親切心に甘え、着席する。

今回の旅は自由席のみの利用だったが、ここぞというときに席に座れた。3連休なのに、運がいいとしか言いようがない。

我が息子は疲れて寝ると思いきや、かえってフルテンションに。疲れすぎて、ナチュラルハイになってしまったのか？

大宮に近づいたときに、車内販売のワゴンで新幹線ボールペンとシャープペンシルのセットを購入。今回の旅行では、我が息子の2つ目のお土産となった。

上野には、20:54に到着。今乗った新幹線をバックに、我が息子を記念撮影した。

すると、運転士がその様子を見ていたためか、我が息子に手を振ってくれたのだ。ただ、当の本人は気づいていなかったようである。

22:00、自宅に到着。これで、「碓氷峠紀行」は完結した。

我が息子に「新幹線はどうだった？」と質問すると、「また明日も乗りたい」だって……。それは無理だとしても、次はいつになるだろう？

[\[トップページ\]](#)